

インターネット定点観測（TALOT2）での観測状況について

1. 一般のインターネット利用者の皆さんへ

インターネット定点観測（TALOT2）によると、2011年4月の期待しない（一方的な）アクセスの総数は10観測点で194,413件、延べ発信元数^{*}は71,935箇所ありました。平均すると、1観測点につき1日あたり240の発信元から648件のアクセスがあったこととなります（図1-1参照）。

延べ発信元数^{*}：TALOT2の各観測点にアクセスしてきた発信元を単純に足した数のことを、便宜上、延べ発信元数とする。ただし、同一発信元から同一の観測日・観測点・ポートに複数アクセスがあった場合は、発信元数を1としてカウントする。

TALOT2における各観測点の環境は、インターネットを利用される一般的な接続環境と同一なので、インターネットを利用される皆さんの環境へも同じくらいの一方向的アクセスがあると考えられます。

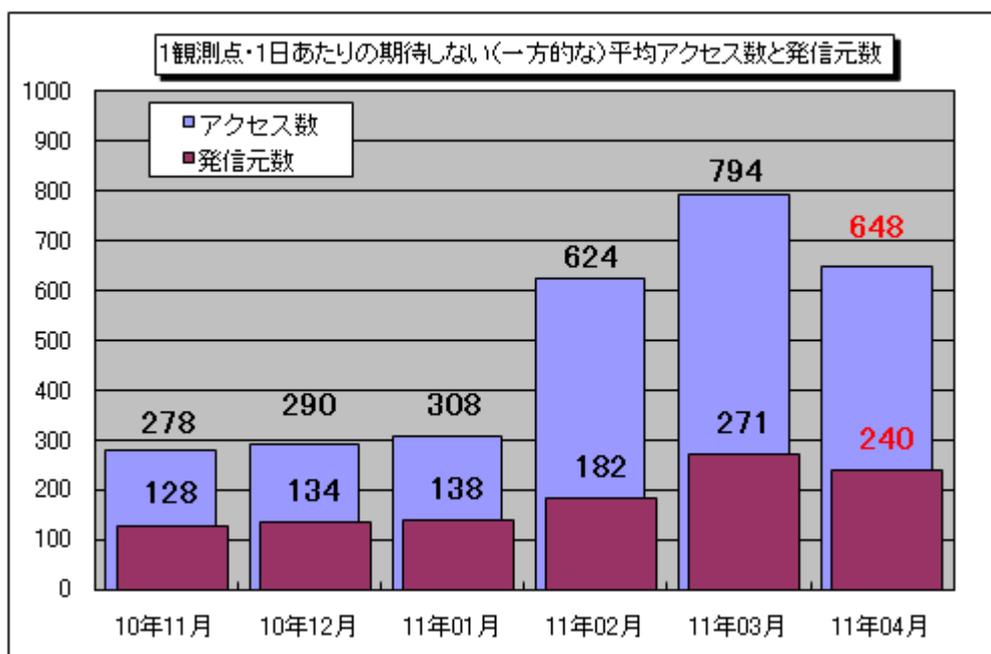


図 1-1：1観測点・1日あたりの期待しない（一方的な）平均アクセス数と発信元数

2010年11月～2011年4月までの各月の1観測点・1日あたりの平均アクセス数とそれらのアクセスの平均発信元数を図1-1に示します。4月の期待しない（一方的な）アクセスは、3月と比べて減少しました。

3月と4月の宛先（ポート種類）別アクセス数の比較を図1-2に示します。3月に比べ、増加が観測されたのは29979/tcpへのアクセスでした。

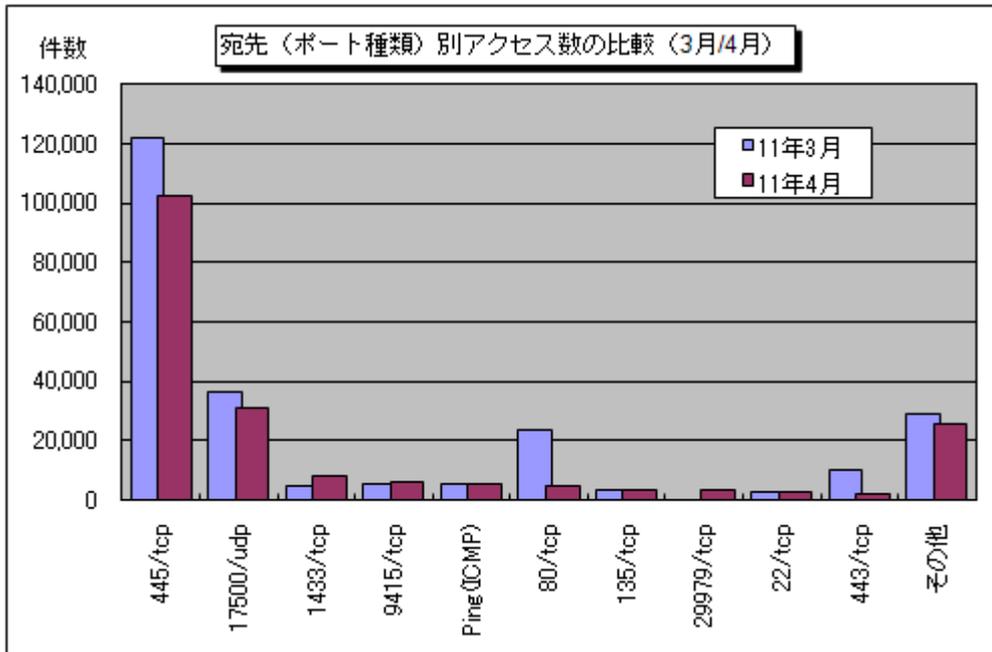


図 1-2：宛先（ポート種類）別アクセス数の比較（3月/4月）

29979/tcpについては、4月4日に、TALOT2 の特定の1観測点に対して特定のIPアドレスから送られていたという特徴がありました（図 1-3 参照）。このポートは特定のアプリケーションで使用するポートというわけではなく、このアクセスが何を目的としたものだったかは不明です。

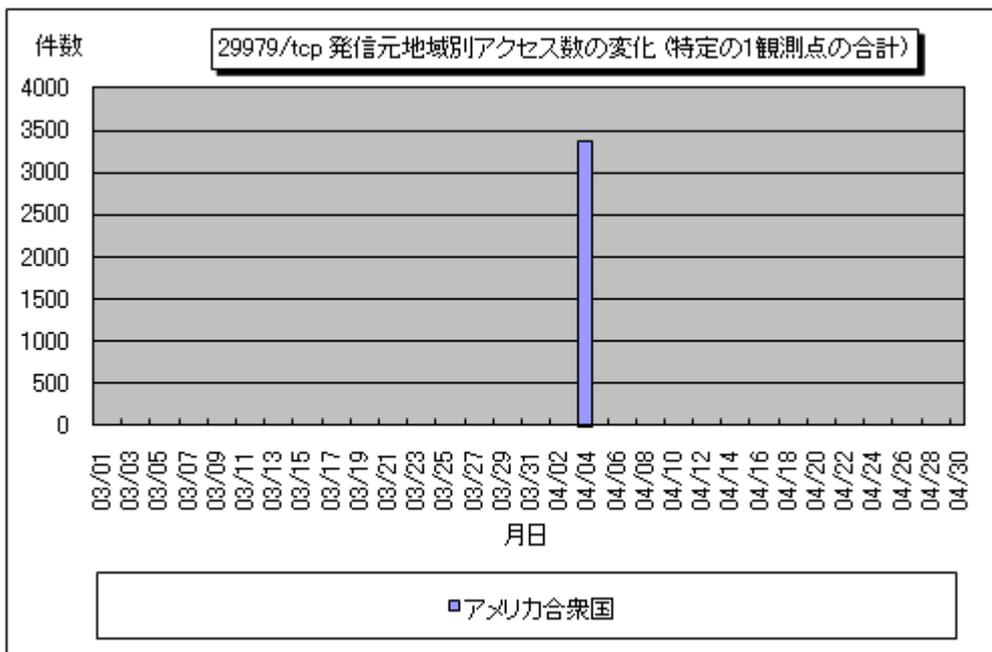


図 1-3：29979/tcp 発信元地域別アクセス数の変化（特定の1観測点の合計）

また、2月21日以降にミャンマーのIPアドレスからのアクセスがTALOT2の複数の観測点で増加したことを3月に報告しましたが、80/tcp、443/tcpのポートへのミャンマーのIPアドレスからのアクセスが4月も観測されました（図 1-4 参照）。

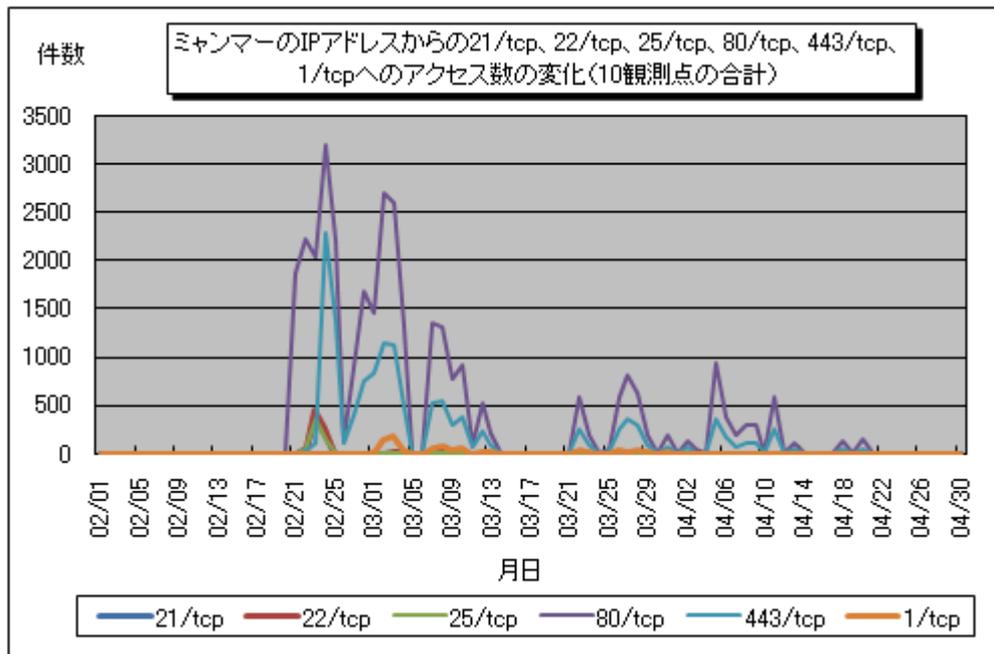


図 1-4 : ミャンマーの IP アドレスからの 21/tcp、22/tcp、25/tcp、80/tcp、443/tcp、1/tcp へのアクセス数の変化 (10 観測点の合計)

2. 2011年4月の一方的なアクセス状況

(1) 宛先（ポート種類）別のアクセス状況

2011年4月の一方的なアクセス状況（アクセス数）の遷移を図2-1に、一方的なアクセス状況（発信元数）の遷移を図2-2に示します。

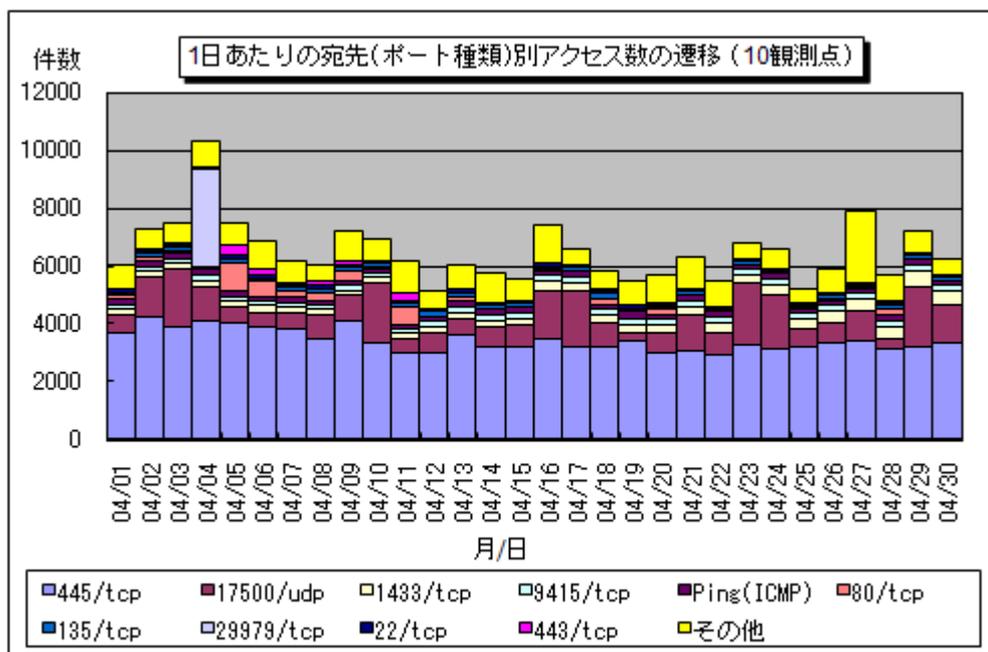


図 2-1：1日あたりの宛先（ポート種類）別アクセス数の遷移（10観測点）

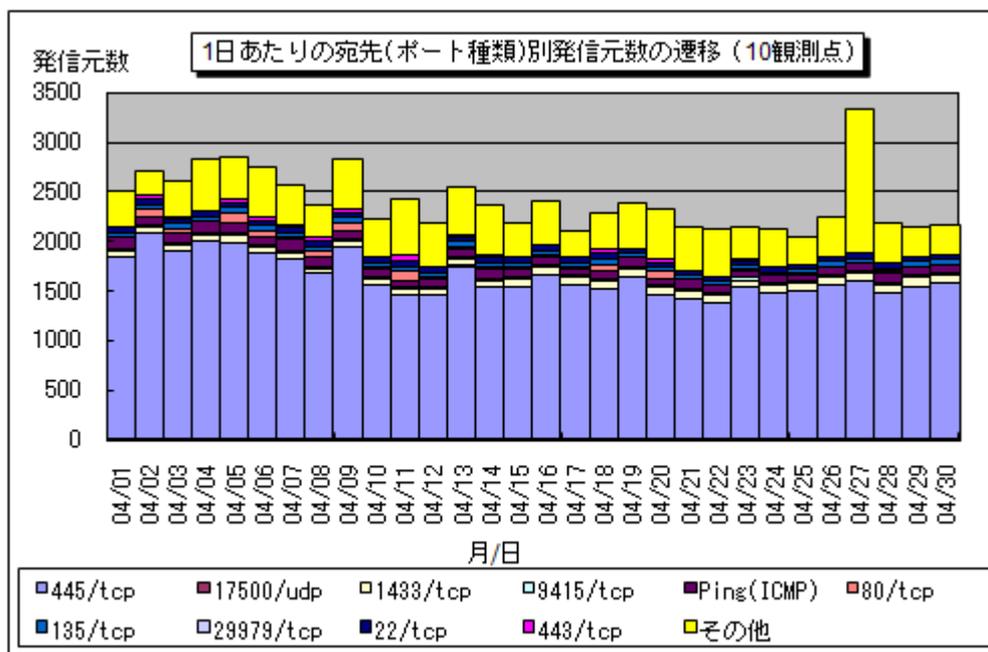


図 2-2：1日あたりの宛先（ポート種類）別発信元数の遷移（10観測点）

(2) 宛先（ポート種類）別の比率

2011年4月の一方的なアクセスの宛先（ポート種類）別アクセス数の比率を図2-3に、宛先（ポート種類）別発信元数の比率を図2-4に示します。なお、比率の数字は小数点第一位を四捨五入していますので、合計が100%ちょうどにならない場合があります。

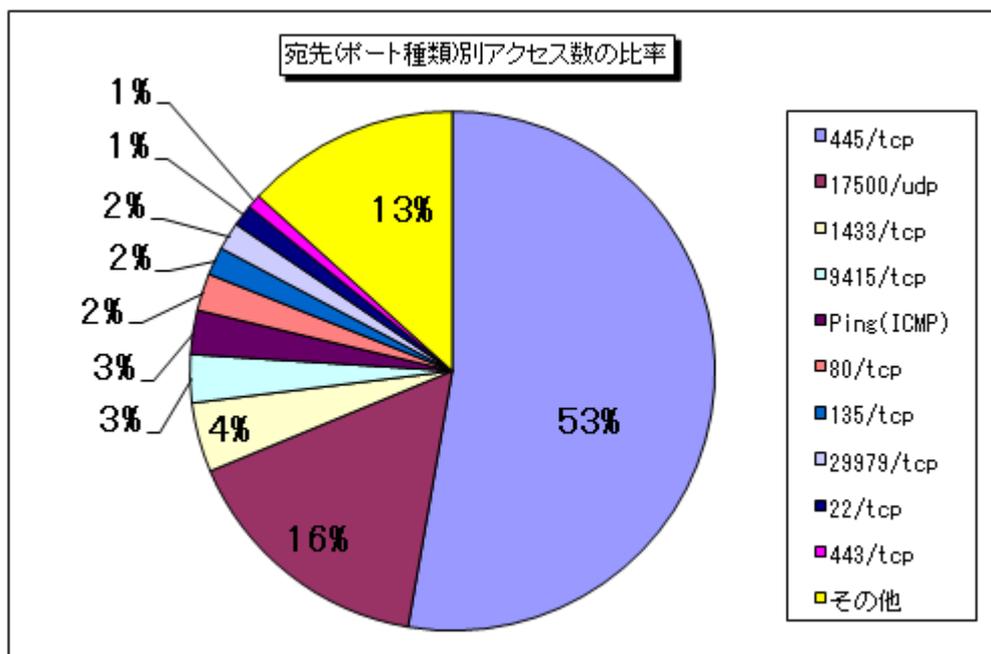


図 2-3：宛先（ポート種類）別アクセス数の比率

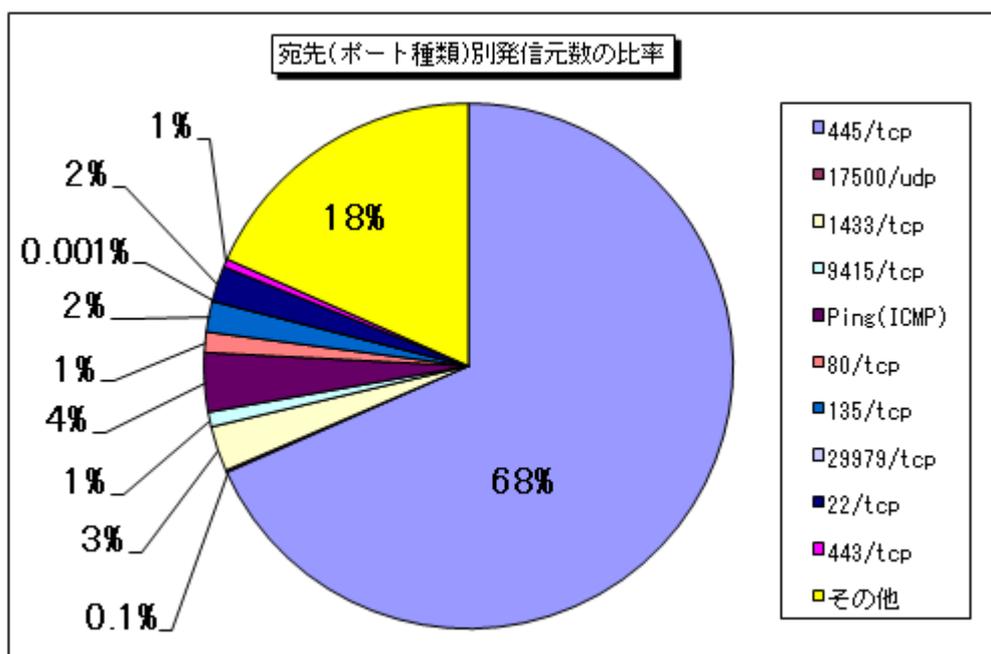


図 2-4：宛先（ポート種類）別発信元数の比率

(3) 発信元地域別のアクセス状況

2011年4月の一時的なアクセスの発信元地域別アクセス数の変化を図2-5に、発信元地域別アクセス数の比率を図2-6に示します。なお、比率の数字は小数点第一位を四捨五入していますので、合計が100%ちょうどにならない場合があります。

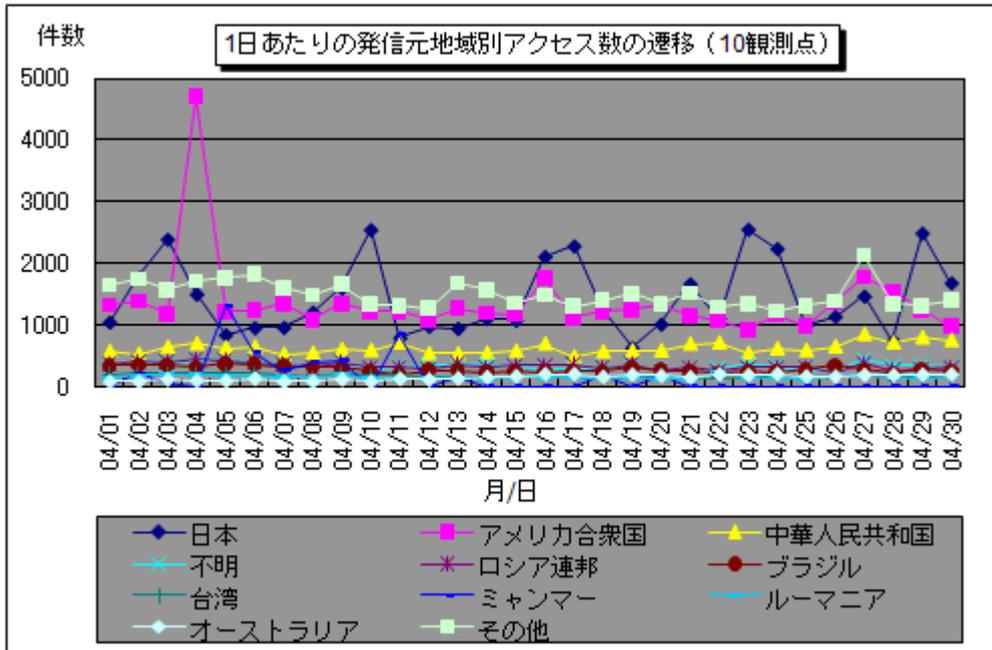


図 2-5 : 1日あたりの発信元地域別アクセス数の遷移 (10 観測点)

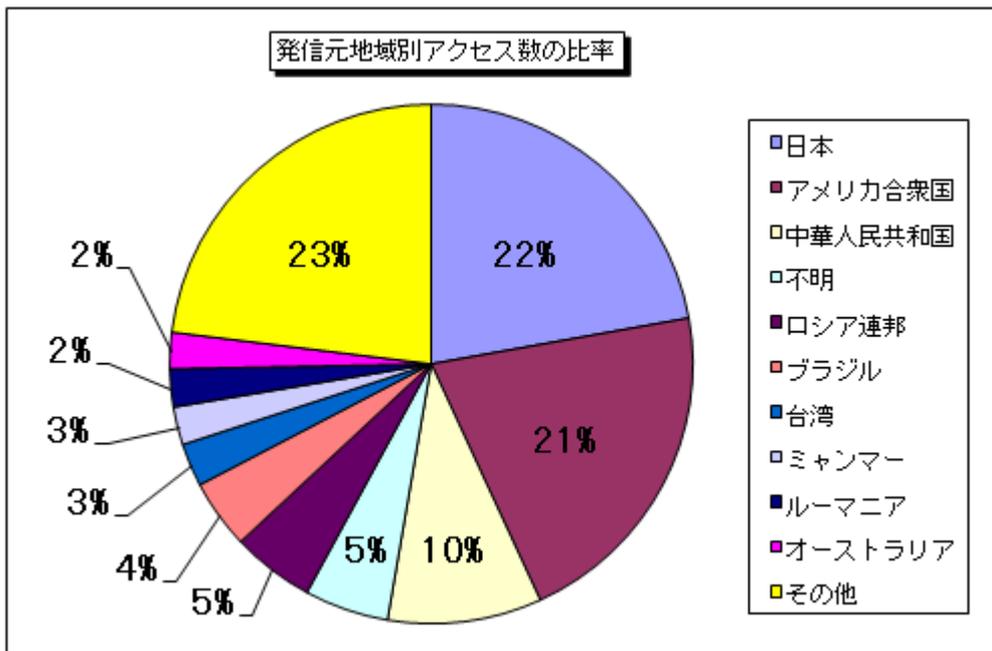


図 2-6 : 発信元地域別アクセス数の比率

2011年4月の一方的なアクセスの発信元地域別発信元数の変化を図2-7に、発信元地域別発信元数の比率を図2-8に示します。なお、比率の数字は小数点第一位を四捨五入していますので、合計が100%ちょうどにならない場合があります。

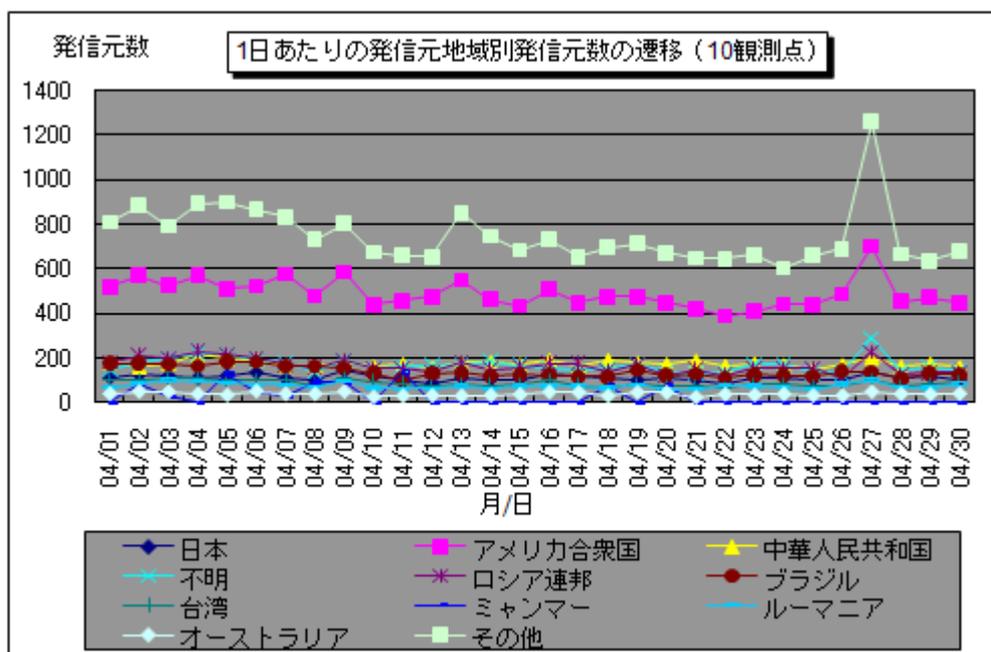


図 2-7： 1日あたりの発信元地域別発信元数の遷移 (10 観測点)

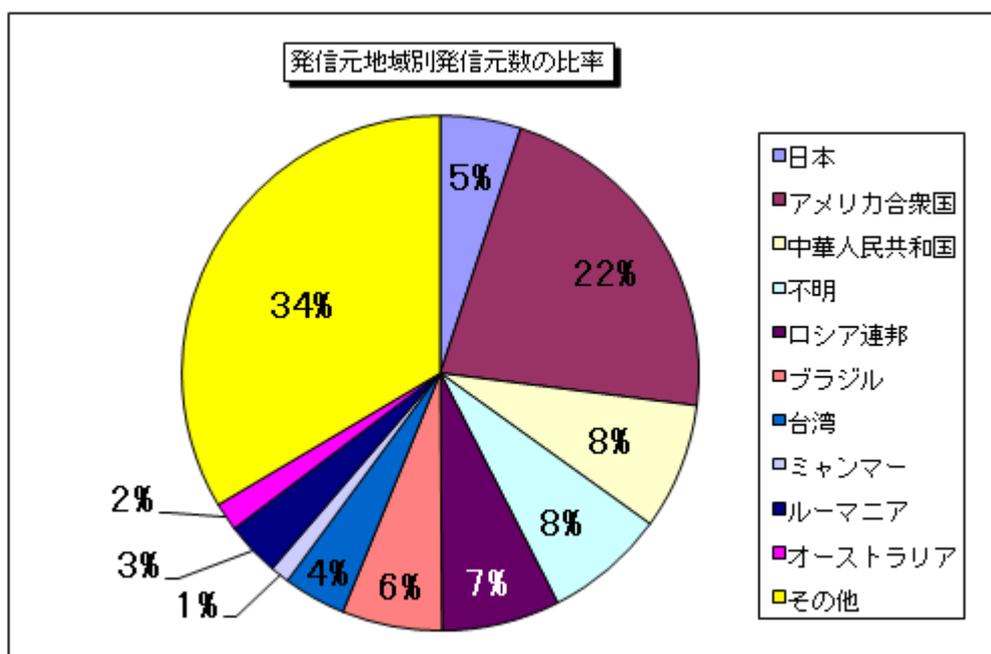


図 2-8： 発信元地域別発信元数の比率

3. 統計情報

(1) 宛先（ポート種類）別の比率

2010年11月～2011年4月の宛先（ポート種類）別アクセス数の比率を図3-1に、宛先（ポート種類）別発信元数の比率を図3-2に示します。

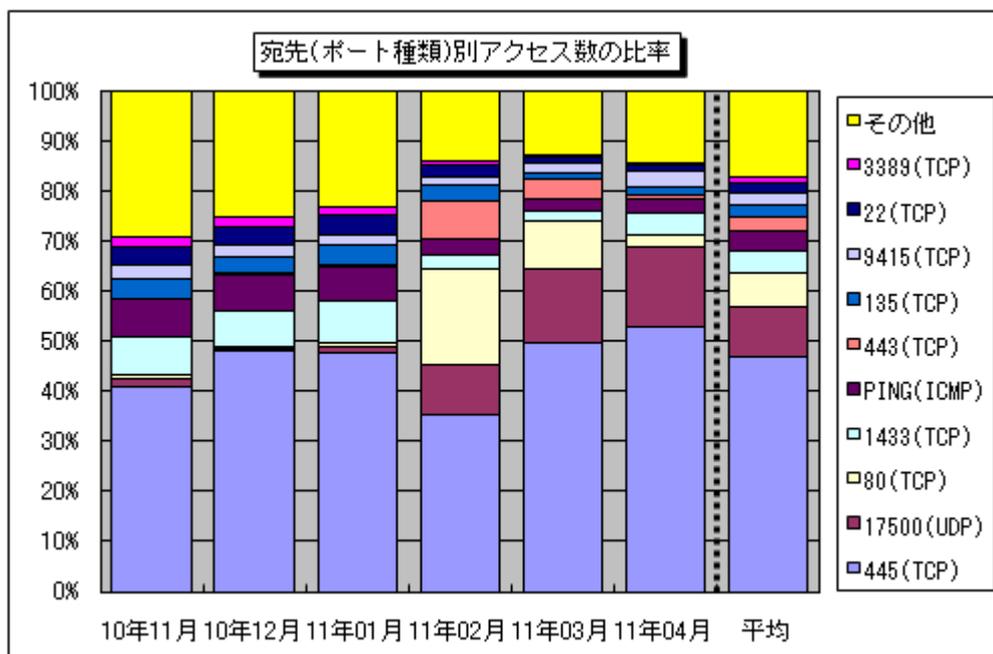


図 3-1：宛先（ポート種類）別アクセス数の比率

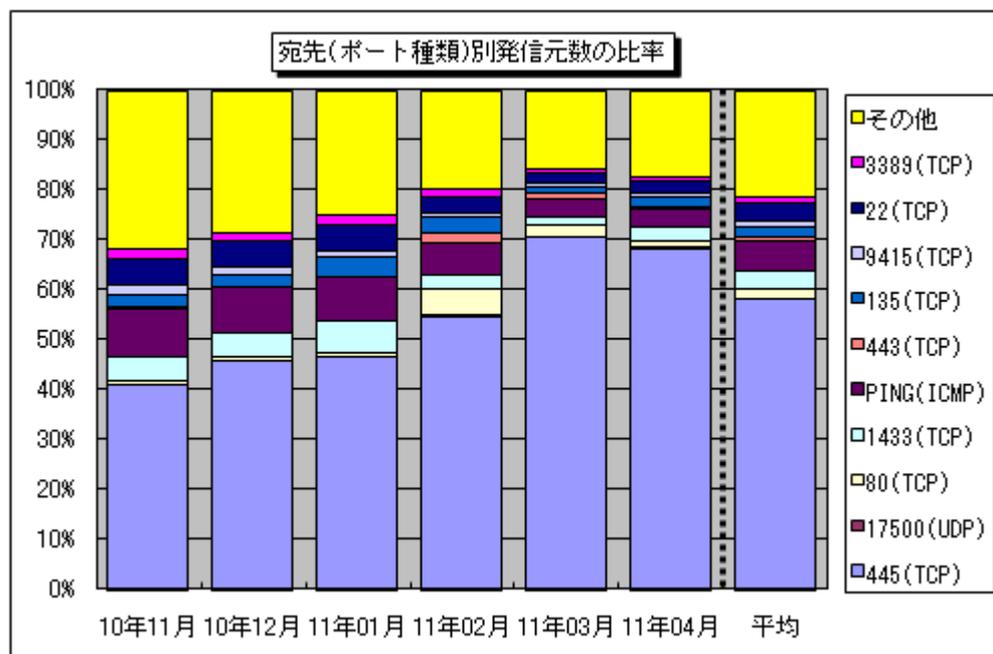


図 3-2：宛先（ポート種類）別発信元数の比率

(2) 発信元地域別の比率

2010年11月～2011年4月の発信元地域別アクセス数の比率を図3-3に、発信元地域別発信元数の比率を図3-4に示します。

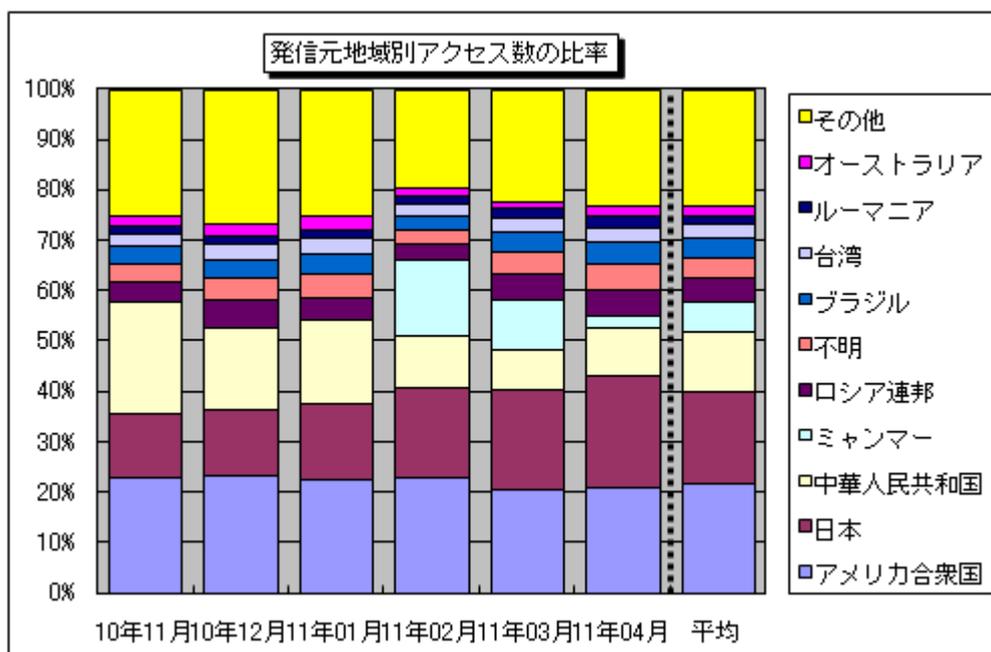


図 3-3：発信元地域別アクセス数の比率

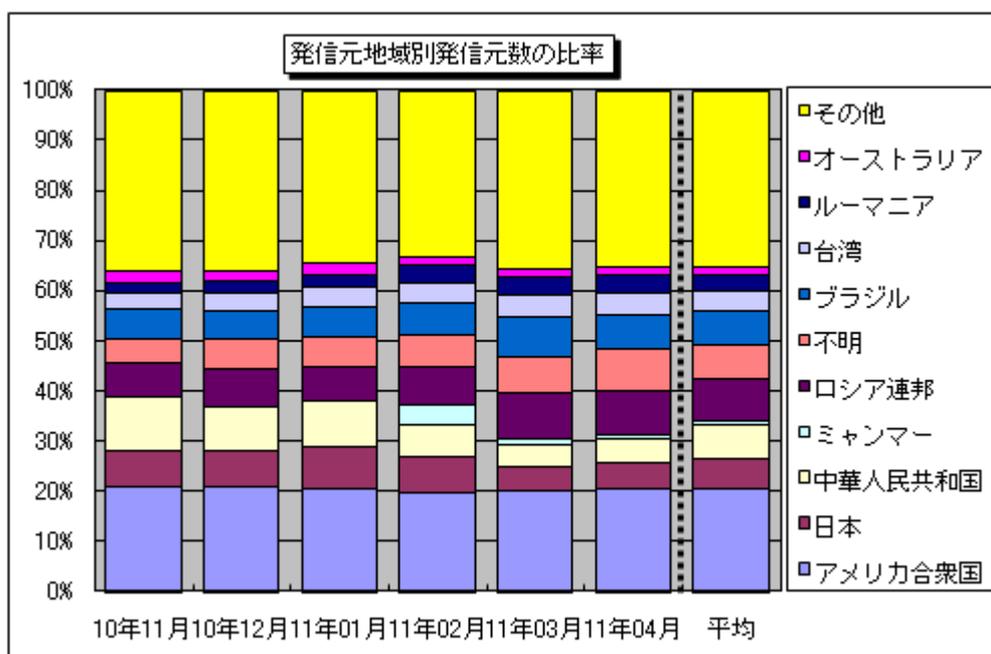


図 3-4：発信元地域別発信元数の比率

4. 補足説明

以下に、2011年4月にアクセス数の多かった宛先（ポート種類）の解説を行います。

ポート種類	解説
445/tcp	保護の甘いファイル（ネットワーク）共有やWindows2000特有の脆弱性を狙った不正アクセスが有名（W32/Sasserなど）。また、Windowsの脆弱性（MS08-067）を悪用するワームが狙う可能性の高いポートでもある（W32/Downadなど）。
17500/udp	特定の観測点でのみ観測される、特定の発信元からのブロードキャストと思われるアクセス。
1433/tcp	Microsoft SQL Severの既定ポートであり、このポートへのアクセスは、SQL Serverが動作中のコンピュータを探す目的や、SQL Serverの脆弱性を狙ったアクセスである可能性が高い。
9415/tcp	中国のあるサイトで公開されているプロキシ機能を持つソフトがインストールされているパソコンを、ウェブサーバ等への攻撃に使うために、探索している可能性のあるアクセス。
Ping (ICMP)	相手のコンピュータが動作中か調べる目的で使用されるが、不正アクセスの対象コンピュータを探す目的で、W32/Welchiaなどに利用されたことで有名。
80/tcp	ウェブアクセスのプロトコルであるHTTPが使うポートであり、ウェブアプリケーションの脆弱性を狙ったアクセスやDoS攻撃に用いられる可能性が高い。
135/tcp	Microsoft Windows Remote Procedure Call (RPC)のデフォルトポートであり、RPCに関する脆弱性（MS03-026）を狙った不正アクセスが有名（W32/MSBlasterなど）。
29979/tcp	特定の発信元から1観測点のみに観測された、原因不明のアクセス。
22/tcp	パスワードクラッキング攻撃によるシステムへの侵入を目的とした、SSH（Secure SHell … ネットワークを介して遠隔のコンピュータと通信するためのプロトコルの一つ）を狙ったアクセスである可能性が高い。
443/tcp	ウェブアクセスのプロトコルであるHTTPSが使うポートであり、ウェブアプリケーションの脆弱性を狙ったアクセスやDoS攻撃に用いられる可能性が高い。

■お問い合わせ先

IPA セキュリティセンター 加賀谷／古川

Tel:03-5978-7591 Fax:03-5978-7518

E-mail: isec-info@ipa.go.jp